

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472900246
法人名	医療法人 豊和会
事業所名	グループホーム第2やまもも
所在地 (電話番号)	三重県志摩市阿児町鵜方2555-9 (電話) 0599-44-1220
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 6 月 20 日(水)

【情報提供票より】 (H19年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 1 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.25人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての 階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	300 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(5 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82.8 歳	最低	70 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	豊和病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鵜方の駅から徒歩で15分ほどのところにあり、大通りから一步入ったところの病院併設のホームである。このホームの強みは、病院併設で家族の安心感が大きいこと。そして職員の退職者が少なく、職員と利用者の信頼関係も非常に強いことである。同じ法人内に3つのグループホームがあり、協力体制が強いこともあるが、運営推進会議もすでに6回開催され、地域との連携・交流も多く、設立4年半ではあるが地域にしっかり根を下ろしてきている。職員同士の仲のよさに加えて、利用者同士も仲が良く、明るく朗らかなホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回調査の改善課題であった項目は、出入り口の施錠以外は、いずれも改善されていた。施錠については解決が難しいので、運営推進会議のテーマとして皆さんの意見を聞く等、模索を続けている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホーム長はじめ職員は自己評価の意義、目的をよく理解しており、評価を活かし具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議をすでに6回開催しており、種々な内容につき報告、検討がなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時に意見を吸い上げる努力をしているし、2ヶ月に1回の運営推進会議でも家族の意見をもらっている。しかし出席できる家族の意見に限られてしまうので、欠席家族にもアンケートの利用等で意見を引き出す努力をお願いしたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議のメンバーに自治会や老人会の責任者もおられ、地域の行事への参加も呼びかけてもらっており、ホーム利用者も参加している。また地域の一員としての道路掃除や子どもの安全パトロールも積極的に参加している。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人とは別に、ホーム独自の理念として「ゆったり、楽しく、いっしょに、私らしく暮らす家」を玄関入り口に大きく掲げており、暮らしを支える柱としている。	○	理念はその事業所がめざすサービスのあり方を端的に示したものであり、地域密着型サービスの役割を考えた具体的なイメージが抱ける理念としてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる	職員会議でも「ゆったりと楽しく・・・」を意識して話し合い、管理者・職員ともに理念を共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、通路掃除や子どもパトロール等の日常的な付き合いや、カラオケの会等の行事への参加もしている。しかし利用者の重度化で参加できる人数が少ないのが悩みである。	○	カラオケ会は会場が2階にあるので足の不自由な方は参加できない(エレベーターなし)。カラオケ好きは多いし、認知症には歌は非常に効果があるので、何とか会場の工夫を地域の方とともに検討されることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義、目的を全職員に伝え、昨年の評価時の指摘事項に対しても、改善をしている。	○	評価結果を事業所全体のケアに活かすことが大切であり、評価の一連の過程を職員全員で取組まれることを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	会議をすでに6回開催しており、事業所の取り組み内容や改善課題を話し合い、地域の理解と支援を得ている。	○	運営推進会議を通しての連携だけでなく、事業所の実情やケアサービスの取組状況を、気軽に話せる機会作りをされ、市とともにサービスの質の向上に取り組まれることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	組織上、法人の相談員が市役所との連携を密に取っている。ホームの管理者としても地域包括ケア会議等できる限り出席し連携をとっている。	○	事業所は認知症ケアの拠点でありパイオニアでもあることを念頭に、それを生かした地域貢献や事業を行っていく上での課題等にも、積極的に行政を巻き込んで解決していく姿勢をお願いしたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に個々の家族にあわせた状況報告をしているし、毎月の請求書と同時に行事の写真を送ったり、2ヶ月に1回利用者の1日の過ごし方の報告を家族にしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や運営推進会議の席で家族意見の吸い上げを行っている。	○	努力はしているが家族からの意見が少ない。率直な意見が出るよう運営推進会議欠席の場合は、あらかじめ意見をいただく等の検討もお願いしたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所として利用者と職員の馴染みの関係づくりを重視しており、設立以来退職者もほとんどないし、職員の異動もない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県社協やグループホーム連絡協議会の研修にも参加しており、研修を受ける機会は職員平等に確保されている。研修に要する費用の補助もあり、職員も積極的に勉強している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人内に3つのグループホームがある上、グループホーム協会に入会しているので同業者との交流は多い。	○	グループホーム同士の交流も大切だが、地域のグループホーム以外の他事業者との交流も検討してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談から利用にいたるまでに1週間の体験入所ができる仕組みになっており、本人の安心と納得を大切にされた支援(シームレスケア)を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	役割分担もあり利用者にしてできることをしてもらい、過去の経験を活かした取り組みの中から教えてもらったり、ともに支えあえる関係作りをしている。特にお風呂の中は1:1であり、より喜怒哀楽を共有できる場として大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で何をするにも本人の意向を尊重するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見は「おまかせします」が多いが、面会時等での聞きだしに努力し、さらに全職員の意見を取り入れて介護計画書を作り、家族に説明している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3ヶ月に1回見直しを行っているし、変化があれば随時見直しを行っている。	○	安定している人でも、月1回程度は新鮮な目で「点検」の意味を含め、職員全員で確認してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の体調に応じ、併設の病院でリハビリを受けている。また花見やハイキング、買物等その時々々の要望に応じ柔軟に対応している。	○	併設病院の多機能性を活かすのはもちろん、ホームの持つ人的・物的資源を活用するというホームの持つ「多機能性」を活かした支援を検討されることを期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には家族の希望するかかりつけ医としているが、利用者全員が併設病院としているので、日々の変化には即応できる態勢にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	併設病院があるので、事業所としては看取りは行わないことを入居時に説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声掛け誘導でも本人のプライバシーを傷つけてしまわないよう一人ひとりに応じた対応をしているし、個人情報については利用者や家族が入ってこない事務室に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的なスケジュールはあるが、何をするにも利用者各自のペースに合わせ、言って「イヤ」ならまた後で言うというように、一人ひとりのペースを大切にしている。食事也希望されれば自分の部屋で食べる時もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れたメニューで、買物、調理、配膳、片付けとできる人が手伝っており、みんなで食事を楽しんでいる。	○	職員も一緒に楽しそうな食事風景だが、「食事は黙って食べるもの」という利用者がおられるためか、話し声があまり聞こえない。食事とは食欲を満たすだけのものではなく、喜びや楽しみをもたらすものにしたい。みんなで楽しく食事できるような雰囲気作りへの努力をお願いしたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は原則一日おきだが、毎日準備されているので、希望があれば毎日でも入れる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「できること、できないこと」のシートもあり、得意分野や過去の経歴等も書き込まれている。食器の後片付けやテーブル拭き、洗濯物たたみ等分担して行っており、楽しみにもなっている。	○	役割(仕事)によっては、体の動く一部の方に限られてしまうので、「もやしのしっぽとり」や「餃子づくり」など、みんなでできる場面づくりを増やされることを期待する。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩やドライブに出掛け、利用者・職員双方にとっての気分転換、季節を感じる機会づくりをしている。	○	重度者が多く外出は車イス対応の大型車になるが、運転できる職員が少なく苦慮している。地域のボランティアさん等のご協力がいただけたら非常にありがたいので、次回の運営推進会議の検討テーマに出されることを望む。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設が2階にあるため安全上施錠している。	○	施設は2階にあり、エレベーターや階段の出入り口が建物の構造上、職員や利用者の共有スペースからは「死角」になっている。以前から施錠については問題視され検討されているが良い解決策がないので、次回の運営推進会議に提案し、皆さんの知恵を借りることにした。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回併設の病院と合同で避難訓練している。	○	年2回種々な設定で訓練をされているが、いずれも昼間であり、職員も多数勤務している時間帯である。災害はいつ起こるかかわらず、特に夜間の災害時には職員の数も少なく、地域の協力が不可欠であり、地域と連携の下の訓練も検討されることを希望する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設病院の管理栄養士が栄養チェックをしているし、水分摂取については個人別のペットボトルや食堂のヤカンで自由に飲めるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真が壁に貼ってあり、一番利用の多いソファの前のテーブルにはメダカの水槽があり、その動きを見ているだけで和やかになる。テレビの音も程ほどで窓からの日差しも柔らかくであり、居心地のよい空間づくりがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットや家具全部が自宅で使っていた馴染みのものを持ち込んでいるし、家具類に角張ったところがあれば事業所側で手直ししている。	○	居室の扉が内側に引く開き戸になっており、車イスの利用者が扉の内側にいると、扉が開けられないことも生じるので、できれば引き戸系のものにされることを検討願いたい。